

開講期	2026年度後期			単位数	2.0単位
科目[授業]名	5225 グローバル化時代の文化学			開講形態 (隔週 偶数 = 隔週2コマ)	週間授業
種別	なし			定員	
履修可能学年	全学年履修可	重複履修	×	全学開講	○
曜日時限	水曜3限				
教室	J103教室				
代表教員	馬場 淳				
担当教員	馬場 淳				
テーマと到達目標	<p>人、モノや制度が国家の境界を自由に横断して、地球規模で流通することは、必ずしも世界の均一化・均質化を意味するわけではない。本講義は、現地(人)の視点や主体性を立脚点に、グローバル化の多様な位相を考えていく。それを通じて、①グローバル化への理解を深め、②グローバル化に伴う社会・文化現象や地域の問題に対してより幅広い視野で考えることができるような能力を養うことが本講義の目標である。</p>				
概要	<p>前半では、グローバル化に関する理論的な枠組みを整理する。そのうえで、主に文化人類学の研究成果にもとづき、グローバル化にかかわるさまざまな事例を具体的に検討し、グローバル化に対する理解を深める。とくに後半は、さまざまなツーリズムとその問題を考える。</p> <p>授業は、基本的に講義形式で進めるが、質疑やリアクションペーパーを通じた授業への参加を求めることがある。</p>				
対面科目/オンライン科目	対面科目				
授業計画				担当教員(複数の教員が担当する場合のみ記載)	授業方式
第1回	ガイダンス：グローバル化への人類学的アプローチについて				対面授業
第2回	グローバル・フローの諸相				対面授業
第3回	グローバリズムと文化帝国主義				対面授業
第4回	グローカリゼーション概論				対面授業
第5回	グローカリゼーション(1)：マクドナルドの事例				対面授業
第6回	グローカリゼーション(2)：シェイクスピア『ハムレット』の事例				対面授業
第7回	国際人権レジームと地域社会の反応(1)：パプアニューギニアのDV法をめぐる				対面授業
第8回	国際人権レジームと地域社会の反応(2)：FC/FGM廃絶運動とアフリカ諸社会				対面授業
第9回	多文化主義と文化的抗弁				対面授業
第10回	未来をめぐる闘争：地球温暖化をめぐる各国の対応				対面授業
第11回	ツーリズムの類型：ダークツーリズムその他				対面授業
第12回	エコ・ツーリズム：太平洋の事例				対面授業
第13回	エスニック・ツーリズム：観光化する伝統文化				対面授業
第14回	生殖ツーリズム				対面授業
第15回	総括				対面授業
成績評価の基準	<p>期末テスト(50%)、平常点(50%)にもとづき評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・期末テストは、授業内容の理解度を問うものとする。 ・平常点は、授業への参加度のほか、リアクションペーパー(毎回提出)から総合的に算出する。 				
履修にあたっての留意事項	<p>・本講義は、文献や視聴覚資料の他、担当者のフィールドワークで得た資料を横断的に組み合わせて展開される(ゆえに特定の教科書は指定していない)。期末テストはその授業内容が問われるため、毎回の出席が望ましい。</p>				
オンライン授業方式(同時双方向型・オンデマンド型)の詳細					
【種別】人数制限(抽選)授業の優先条件					

◆教科書・教材

教科書以外に必要な教材費用	とくになし		
教科書	とくに指定しない。各回の講義で配布するレジュメ・資料が「教科書」となる。	教科書(ISBN)	
参考文献	<p>授業内容に関する文献は適宜指示するが、参考までに以下の文献を挙げておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ A・アバデュライ 『さまよえる近代——グローバル化の文化研究』(門田健一訳) 平凡社、2004年。 ・ 前川啓治 『グローカリゼーションの人類学』新曜社、2004年。 ・ 大橋昭一・橋本和也ほか(編) 『観光学ガイドブック——新しい知的領野への旅立ち』ナカニシヤ出版、2014年。 	参考文献(ISBN)	

◆合理的配慮

<p>本学における修学支援基本方針について</p>	<p>本学における修学支援基本方針は以下URLを確認してください https://www.wako.ac.jp/campuslife/barrier-free.html 合理的配慮を希望する場合は基本方針およびシラバスを熟読の上で申請すること</p>
---------------------------	---